

## 研修プログラム：高校生の日本語教育・指導のためのオンライン研修

### 「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」(全3回)

#### 第3回 「学習環境としてのコミュニティのデザイン」

## 1 ねらい — 3回の研修を通じて

小中学校では2016年度より、「特別の教育課程」として日本語指導を編成・実施するための制度が整えられ、学校現場で導入が進められてきましたが、高等学校においても2023年度より同制度が施行されました。外国人生徒等教育においては、この制度を利用して日本語指導の充実を図り、共生社会の一員として自己を実現するためのことばの力を育むことが期待されます。そこで本研修では、多様な言語的文化的背景をもつ生徒たちが、主体的に自分の未来を切り開き、社会参画するための「ことばの学習／ことばの教育」について学びます。

自分の力の発掘と未来の開拓には、生徒がもつ潜在的な力に気づかせ、さらにその力を強みとして社会的相互作用により発展させていくこと、つまりかれらをエンパワーメントすることが重要です。これを教室の学習として具現化するために、本研修では「学習環境のデザイン」という枠組みで、日本語指導について考えます。学習環境の4要素「空間」「活動」「人工物（教材・教具等のリソース）」「コミュニティ（共同体）」のうち、「活動」「リソース」「コミュニティ」の3側面から、日本語の授業をいかに設計するかを検討します。外国人生徒等が、その言語的文化的多様性、経験や培ってきた知識・技能を生かせる学習環境づくりを目指します。そのために、例えば、教科学習活動、社会的活動、キャリアにかかわる活動等と日本語学習を積極的に関連付け、教材や教具などのリソースを工夫します。そして、人間性などを土台に他者と協働的に学ぶ活動を配置します。こうした学習環境の下で、培ってきた力を活かして自分らしく学ぶ経験を通じて、社会的存在として将来の目標をもち、自律的に学び続ける力も育まれると期待されます。

本研修は、全3回のオンライン研修です。次のテーマで構成し、講義及び実践例や現場の取り組み例をもとに、「ことばの学習」のための環境デザインについて学び、話し合います。

#### <3回の研修テーマ>

回	テーマ
第1回	「ことばの学習」の活動をデザインする
第2回	「ことばの学習」のリソースをデザインする
第3回	学習環境としてのコミュニティをデザインする

なお、参加にあたっては、本ユニットが作成した高等学校における「特別の教育課程」としての日本語指導に関する動画（参加者限定公開）の事前視聴による事前学習を課します。

## 2 第3回のプログラム

### 学習環境としてのコミュニティをデザインする

(1) 概要

時間	150分（2時間30分）
主たる受講者（対象）	高校で学ぶ外国人生徒等、および高校生相当年齢の子どもに日本語指導・学習支援等の支援を実施している教師・支援者等
テーマ	学習環境としてのコミュニティのデザイン
ねらいとする資質・能力*	<p>&lt;捉える力&gt;</p> <p>キ 子どもの暮らしを地域の多文化化や外国人住民支援の状況に関連付けて把握することができる。</p> <p>ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。</p> <p>&lt;育む力&gt;</p> <p>サ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。</p> <p>&lt;変える力&gt;</p> <p>ハ 外国人児童生徒等が地域にもたらす影響を多様性として肯定的にとらえられるように、マジョリティである受け入れ側に働きかけることができる。</p>
研修内容	<p>1 学習環境デザインの考え方で、目標を共有する人々の繋がりや、主体的参加によって構成されるコミュニティ（共同体）を取り上げて検討する。どこで誰とどのような目標で、どのような活動に参加する経験が、社会的存在として自己を実現するために学び続ける主体性と自律性を涵養するのか、学校・地域コミュニティ・エスニックコミュニティ等、様々な可能性をともに考える</p> <p>2 事例報告（「特別の教育課程」による日本語指導を実施している高等学校）から、具体的な指導体制や指導内容について学ぶ。</p>
事前課題	<p>参加に当たっては、事前に次の研修用スライドの視聴を求める。本研修は、以下を視聴済みであることを前提として構成してある。</p> <p>東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2024）『高等学校における日本語指導の制度化―「特別の教育課程」としての編成・実施について』</p> <p>&lt;1&gt; 基本的な考え方と制度の解説</p> <p>&lt;2&gt; 「特別の教育課程」として日本語指導の編成・実施のポイント</p> <p>&lt;3&gt; 高等学校における日本語指導の現状と課題</p>

※公益社団法人日本語教育学会（2020）『文部科学省委託事業（2017-2019年度）「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』の「豆の木モデル」にもとづく（ウェブサイト [URL:https://mo-mo-pro.com/report](https://mo-mo-pro.com/report)）

## (2)実施計画

活動展開	具体的な内容・活動	利用した資料等
<p>1 説明「研修テーマ、趣旨、目標」</p> <p>2 講義「高校生にとっての社会的学習環境」</p> <p>(1)「異文化適応とエスニックコミュニティ」</p> <p>(2)講義「社会的学習環境とキャリア形成」</p> <p>3 事例報告</p> <p>4 グループワーク</p> <p>5 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修の趣旨</li> <li>・ねらいとする資質・能力</li> <li>・研修終了後の振り返りの実施</li>   <li>・コンピテンシー</li> <li>・向社会性・ソーシャルスキル</li> <li>・社会関係資本</li>   <li>・異文化適応の4類型「統合」「同化」「分離」「境界化」</li>   <li>・高等学校の実践例；</li> <li>・クラブ活動、探究活動</li> <li>・SDGs、シティズンシップ</li> <li>・放課後支援組織</li> <li>・エンパワーメントモデル</li>   <li>報告：「特別の教育課程」による日本語指導実施校の担当者に、体制・教育課程・授業の実際について報告いただく</li>   <li>小グループで話し合い</li> <li>①自己紹介 (活動している場所と名前)</li> <li>②話し合い</li>   <li>アンケート記入</li> <li>・満足度</li> <li>・今後の活用のアイデア</li> <li>・資質・能力の向上の有無</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修趣旨のスライド資料</li>   <li>参考：</li> <li>・国立教育政策研究(2017)</li> <li>・Berry(1990)</li> <li>・本ユニット(2023a)「高等学校における外国人生徒等の受入れの手引」</li> <li>・本ユニット(2023b)「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」</li> <li>参考：</li> <li>・宮城県国際化協会(2019)</li> <li>・佐藤(2015)</li> <li>・本ユニット(2024)「高等学校における日本語プログラム」</li>   <li>・事例報告者作成スライド(3資料の2025年度研修報告事例の資料を参照のこと)</li>   <li>グループ活動の課題：生徒が属するコミュニティとそこでの活動を紹介する。***</li> </ul>
<p>参考文献・資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Berry, J. W. 1990 Psychology of acculturation. In RW. Brislin(Ed.), Applied Cross-cultural Psychology. Newbury Park, California:Sage. Pp. 232-253. Bochner</li> <li>・国立教育政策研究所(2017)『非認知的(社会情緒的)能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書』研究代表者 遠藤 利彦(国立教育政策研究所)</li> <li>・本ユニット 2023年度研修報告書  <a href="https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M23_kenshu04_ogikubo2.pdf">https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M23_kenshu04_ogikubo2.pdf</a></li> <li>・本ユニット(2023a)「高等学校における外国人生徒等の受入の手引」  <a href="https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_tebiki.pdf">https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_tebiki.pdf</a></li> <li>・本ユニット(2023b)「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」  <a href="https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf">https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf</a></li> <li>・本ユニット(2024)「高等学校における日本語プログラム」  <a href="https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project02/content3.html">https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project02/content3.html</a></li> </ul>		

- ・宮城県国際化協会編(2019)「外国籍児童生徒サポート事例集～多文化な子どもたちの未来をひらくために～」
- ・佐藤 寛 編(2005)『援助とエンパワーメント』 アジア経済研究所

#### ※※活動4 グループ活動（話し合い）の課題

課題：生徒が能動的に相互作用をするコミュニティについて紹介する。

グループ：ランダムグループ（5人程度）

活動：1 自己紹介 一人1分程度 活動している場所と名前

2 生徒のコミュニティでの活動について紹介し合う

- ・生徒たちが、教室以外のどんなコミュニティで過ごしているか。
- ・そのコミュニティの目的・目標のために、生徒は問題解決や課題遂行に主体的にかかわっているか。そこで、日本語として、何を学び、多様性や持ち味をどう発揮しているか（具体的なエピソードを紹介してください）。
- ・そのコミュニティ自体に、彼らの参加による変容があったか。

### 3 資料(ダウンロード可能)

① [講義 学習環境としてのコミュニティのデザインー生徒の主体的な学びとキャリア形成を促すためにー 市瀬智紀 宮城教育大学](#)

② [報告資料 金子大樹 兵庫県立湊川高等学校](#)

③ 事前課題資料

[東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2024）『高等学校における日本語指導の制度化ー「特別の教育課程」としての編成・実施について』](#)

#### 本プログラム・資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。

資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトの URL」を明記して利用してください。

部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。